

令和五年

松香 Komunikado

令和五年四月度 春季大祭 ごあいさつ

分苑長 山本 健

Saluton al ĉiuj

今年の桜は例年より十日程早く開花いたしました。亀岡聖地の木の花桜も開花は三月二十三日で、中之島の親木と静岡分苑の若木が同時でしたのも神秘的な思いが致しました。ただいまは松香分苑の令和五年四月度の春の大祭並びに春の祖霊慰霊祭を、さすがしく斎行させていただきます。ご参拝・ご奉仕くださいました皆様方、又オンライン参拝並びにお玉串をお送りくださりました方々、誠に有難うございました。

一、静岡分苑参拝

三月二十六日に静岡分苑発足十周年記念祭典が教主様ご臨席の基、斎行されました。私は初めて参拝さ

四月九日発行

第三百一号

大本松香分苑

豊橋市南牛川二・三・二〇

電話 ファックス

〇五三二・六三・二一七三

発行責任者 山本 健

せていただきましたが、立派な神の家でした。青少年も多く、誠心会、直心会の方も真摯に努めておられました。

静岡分苑では、伶人入殿、祭員入殿、教主様入殿と言われていました。祭典後に、特派に確認しますと、「特に規定はなく、拝殿があれば入殿でいいのでは」との回答でした。念のため、祭務部長の成尾様に電話して伺ったところ、「厳密な決まりはない、分苑の方で決めてもらったらよいと思う」と回答されました。昨年、具志堅教授が参拝された折の「入殿としたほうが良いと思う」との助言に従って「にゆうでん」に変えましたのでよろしくお願い致します。参事会の同意も得ております。

二、神様の言うことにははいと答えて素直にさせてい
ただくことが大切

この後記念講話として、大道場講座の中の三代様の
時代についての講座を聞いていただきますが、神様の
仰られたことは、素直に聞くことが大切です。

教主様は、大神様から直接に内流を頂かれます。従っ
て、教主様の仰られることは、大神様が言われたこと
と同じです。大祭時の教主様のお言葉をよく拝読し
て、素直に実践しましょう。今お示しされていますの
は、尊師様の十訓です。これを皆様毎日朝夕拝時に読
み上げて、少しでも実践していきましょう。ラミネー
ト版を作りましたので、一枚五十円でお分けしますの
でご利用ください。代金は、階段の献金箱に入れてく
ださい。

尊師様の十訓（一月号にも掲載済み）

- 一．強く正しくニコヤカに
- 二．上見て進め下見て暮らせ
- 三．真剣の前に不能なし
- 四．論で負けても行いで勝て
- 五．長所と交われれば悪友なし

- 六．話し上手より聞き上手
- 七．己に克つて人には譲れ
- 八．急ぐな休むな怠るな
- 九．向上の一路に終点なし
- 十．仲よく働け笑つて暮らせ

三、弥仙山岩戸開き百二十周年 祭典は四月二十八日

（事前申し込み制）

明治三十六年旧四月二十八日、開祖様、聖師様、二
代様、三代様の四魂がおそろいで霊峰弥仙山に登拝さ
れ、天の岩戸開きの神事が行われました。神界ではす
でに岩戸が開けたということですが。教主様のご染筆に
「一人一人が岩戸開き」とあります。一人一人が心の
中に潜む、利己主義（われよし）、弱肉強食（つよい
ものがち）を退治して、人群万類と大和合すること、
みろくの世が実現します。まずは自分自身がみろくの
世の人にならせていただきますように。

四、数字の不思議

皆様御存じのように、大本は型の出るところです。よく言われるのが、大本事件勃発は昭和十年十二月八日、第二次世界大戦開戦が、六年後の昭和十六年十二月八日、大本聖地爆破が昭和十一年四月十八日、東京の大空襲が六年後の昭和十七年四月十八日。更に大本が無罪確定したのが、昭和二十年の九月八日、太平洋戦争が、サンフランシスコ講和条約で終結したのが、六年後の昭和二十六年の九月八日。聖師様二代様の未決拘留期間は、六年八か月。連合軍による日本の占領期間も六年八か月。等です。

また、数字の不思議さでは、綾部市の位置は、東経一三五度、北緯三五度です。漢字で三五と書いてあないと読み、大本のことを示しています。これも不思議です。大神様はこれだけいろいろなサインを示してくださいっています。激動の令和の五・六・七年が始まっています。

イルカやクジラ、イワシなどが陸に上がるなど異常現象も起きていて、いよいよかと思ったりもします。このような時こそ、教主様にしつかりおすがりして、激動の時代を乗り切りましょう。

聖師様お歌

「いかならむ なやみにあうも おそるるな
この世に神の います限りは」

五、今年の主な行事

*大本エスペラント協会 (EPA) 創立百周年

献詠歌募集 (五月十四日締め切り)

*み手代下付百周年記念、み手代歌碑建立六十周年

記念祭典 六月四日、

*道院提携百年 (大正十二年十一月四日)

七月二十四日から